

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 30日

事業所名 カメの子第1教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1つの部屋に集中しない様に、1階と2階で活動をしています。	天候が悪い日でも身体を動かして遊べる場所の確保をしていきたいと思います。
	2	職員の配置数は適切である	○		基準以上の人員を配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		必要に応じて修繕を検討します。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員間でその日ごとに意見を出し合っています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的に評価表を配り、業務の改善に役立つようにしています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公表しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在行っていないため、今後検討をしていきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に内部研修を行っています。	コロナ禍で外部研修には中々参加出来ないで、オンライン研修や出前講座を利用したいと思います。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントやモニタリングを通じ、保護者様や本人のニーズに合わせて作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		共通のアセスメントツールを利用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングで検討し計画しています。	季節に合わせた活動を取り入れ、固定化しないよう工夫をしていきます。 子どもたちの中には、集団を好まない児童もいますが、時間をかけて集団活動ができるよう支援していきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		送迎前に職員全体で打ち合わせをしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員の終了時間が違うためツールを使用し情報共有しています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々、記録表を記録し複写を保護者様にお渡し、職員で共有しています。	日々の支援の中で、利用者の良い面にも着目した「きらりノート」を新しく導入していきます。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		適宜、モニタリングを行い、6ヶ月に1回個別支援計画の見直しを行います。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		看護師を中心に連携した支援を行っています。	ケアが必要なお子様は、医師からの指示書を頂きます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		看護師を中心に連携した支援を行っています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			必要に応じて、詳しくお伝えしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修などで情報の交換を図るようにします。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		現在、交流の場は設けていませんが、地域の公共施設で過ごす機会が多いので一緒に過ごす時間もあります。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		研修などで情報の交換を図るよう努めていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の連絡帳や送迎で情報交換をしています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		必要に応じて情報提供を行っています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的の様子を伺い、適宜相談に応じています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		定期的におたよりを発行しお伝えしています。	
	35	個人情報に十分注意している	○			施設で保管している個人情報については厳重に管理し、ミーティング時にも取り扱いについて注意喚起を促しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・口頭で伝わりにくい場合は、メールや文章でのやり取りを行っています。短く分かりやすい言葉で伝え、写真や絵カードを併用するなど、配慮を行っています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	現在行うことができていません。	コロナ禍でもあり難しいです、今後検討していきたいと思っています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各種マニュアルを策定しています。	年2回の、訓練を定期的に行っています。今後もお便りにてその様子を保護者様にお知らせしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止マニュアルを作成し、研修を行っています。	虐待防止関連の認識を強めていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		利用契約書に義務として記載し、契約時にて説明しています。開設以来身体拘束は行っていません。	クールダウンが必要な時は、状況に応じて職員がマンツーマンで対応をしています。今後、必要がある場合には保護者に説明し、支援計画書に記載をしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		必要に応じて指示書を頂いています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		日々、職員で記入し、改善点を話し合うように努めています。	